

看護師のストレス サーとストレス反応 に関する文献研究

—日本と韓国を比較して—

NO.1301

研究目的

背景：先行研究は日本の看護師が他職種に比べてストレスが多いことを指摘している。



目的：この日本の看護師のストレスの多さは、日本特有の現象であるのか検討する。

看護師のストレッサーとストレス反応に着目し、日本と韓国（医療水準・社会背景・文化等が似ている国）を比較、分析を行った。

研究方法：文献研究

データ収集方法

原著論文を「医学中央雑誌」「국회전자도서관(国家電子図書館)」で検索
検索KeyWords: 「看護師」「ストレス」「ストレッサー」「ストレス反応」

分析対象文献

検索結果からタイトルと抄録をみて、抽出した。

日本語文献365本の内、6本を抽出

韓国語（ハングル）文献89本の内、6本を抽出

分析方法

KJ法を用いてカテゴリー化した上で、分析をした。

結果 1 看護師のストレス

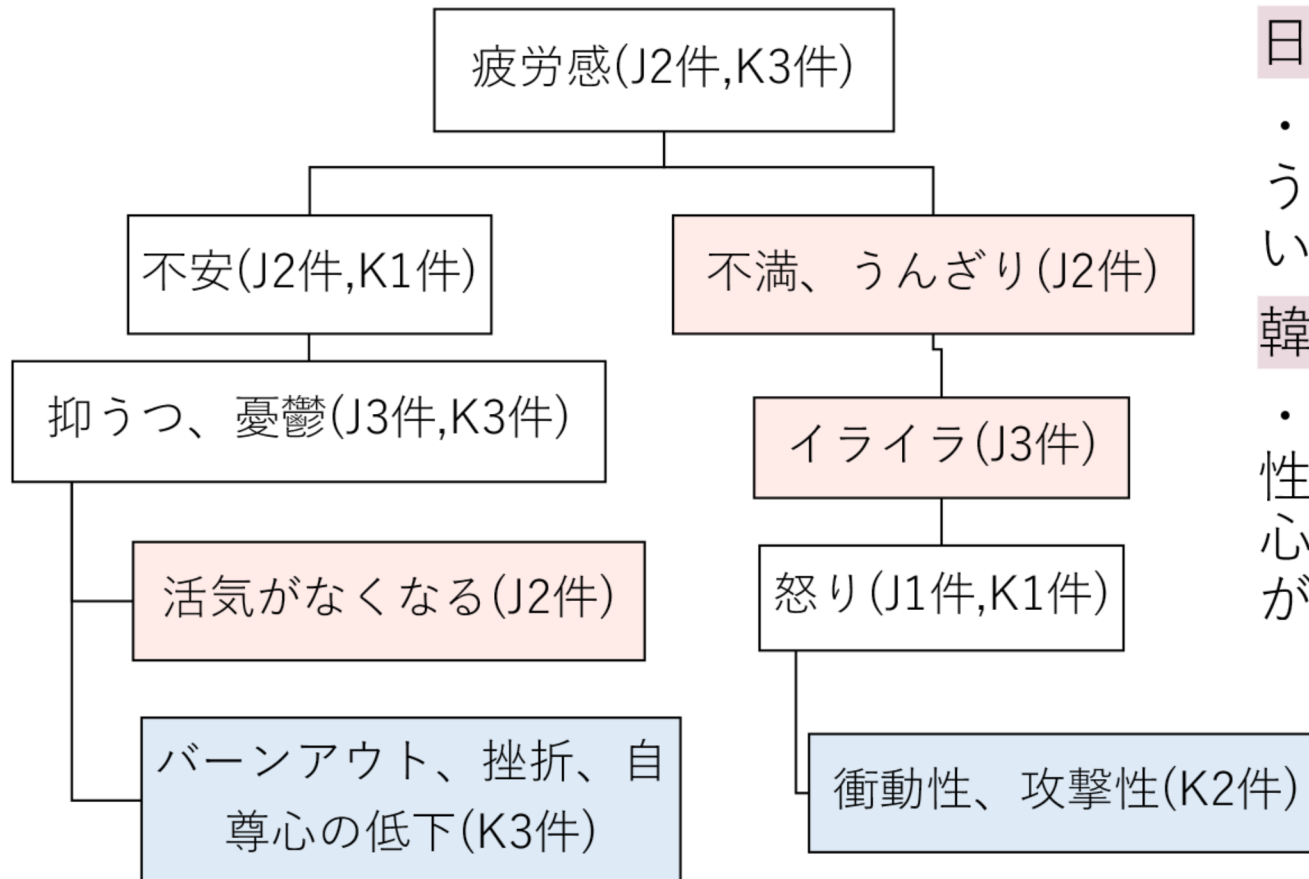
カテゴリー別に見ると、「業務」が日韓共通して最も多い項目であった。
しかし、異なる項目もみられた。

カテゴリー	サブカテゴリー	日本	韓国	
業務	業務量	7	4	業務 ・日本は「業務量」「業務内容」が多い ・韓国は「専門性」が多い
	業務内容	11	3	
	専門性	3	6	人間関係
人間関係	上司	4	1	・日本は「上司」に対してが多い ・韓国は「医師」に対してが多い
	部下	2	1	
	医療チーム（医師）	2	3	その他
	患者	2	1	・日本は「ワークライフバランス」が多い ・韓国は「待遇」が多い
その他	待遇	1	6	
	物理的環境	1	3	
	ワークライフバランス	5	1	

* 日本 4 本/韓国 4 本の論文より分析

結果 2 看護師のストレス反応

「不安」「疲労感」「怒り」「抑うつ・憂鬱」が共通して現れた反応であるが、日韓で異なる反応もみられた。



日本のみの反応

・日本は、「イライラ」「不満・うんざり」「活気がなくなる」といった反応があるのが特徴

韓国でのみの反応

・韓国は、「緊張、衝動性・攻撃性」「バーンアウト・挫折・自尊心の低下」といった反応があるのが特徴

* 日本 3 件/韓国 2 件の論文より分析
* J = 日本, K = 韓国の略称

考察 1-① ストレッサー

1. 業務に対するストレスの多さが日韓で共通している

・ 医療従事者に関する議論は常にその不足に焦点が当てられている。(OECD,2016)

⇒ 日韓共に看護師一人一人の負担が大きいことが考えられる。

2. 特に日本は業務量、業務内容に対するストレスが多い

・ 日常生活解介助や終末ケアを日本は「看護師」、韓国は「家族や看病人」が行う。

⇒ 日本の看護師の業務は幅広く、複雑化していることが要因と考えられる。

考察 1-② ストレッサー：人間関係

ストレスを感じる相手として、日本は上司＞医師であるのに対し、韓国は医師＞上司と2国で異なる。

- ・ 日韓には上下関係を重視する文化がある。

⇒ 日本では、近年チーム医療の浸透により看護師と医師が対等になりつつあるのではないか

考察 1-③ ストレッサー：待遇

「待遇」に対するストレスが韓国の看護師に多い。

- ・ 給与と労働時間を日韓の看護師で比較した。
 - 一年目の給与は日本が272,018円(日本看護協会,2020)
 - 一般大卒初任給：200,400円(金,2015)
 - 韓国が約275,000円(김진현,2020)
 - 一般大卒初任給：約278,400円(金,2015)
- 法定労働時間は日本が週40時間、韓国が週52時間であった。
- 韓国の看護師は一般大卒と給与が変わらず、日本と比べて労働時間が長いことが分かった。
- ⇒ 韓国の看護師は、労働に見合った報酬をもらえていないことが推測でき、ストレスの要因となっていると考えられる。

考察4-① ストレス反応

韓国のみ「衝動性、攻撃性」「バーンアウト、挫折、自尊心の低下」の反応

- ・ 先行研究より自殺企図者や自殺既遂者における衝動性、攻撃性の亢進が報告されている。
 - ・ バーンアウトは意欲をなくし、社会的に適応できなくなってしまう状態である。人生において悲観的になり、場合によっては自殺に至る可能性がある。
 - ・ 韓国の自殺率はOECD加盟国内(37カ国)で連続1位が続いている。年齢標準化自殺率がOECD平均11,3人、韓国24,9人、日本14,9人で、韓国はOECD平均の二倍以上である。
- ⇒ 韓国の看護師は、ストレスによる自殺リスクが高い可能性がある。

結論

本研究において、日本だけでなく韓国でも看護師がストレスを多く抱える環境に置かれている事が示唆された。

日韓で共通するところも多く見られたが、一方でストレッサーとストレス反応を細かく分析するとそれぞれの特徴的な差もあった。

日本の良い点は伸ばし、業務内容についてなどの改善できる部分を取り入れていくことで、日本の看護師のストレス軽減につながっていくのではないかと考えられます。